

日本写真学会 第33回カメラ技術セミナー

2026年11月20日(金) 10:30~19:30 東京都写真美術館

主催 (一社)日本写真学会 カメラ技術研究会
協賛 (一社)画像電子学会, (一社)日本印刷学会, (一社)日本画像学会, (一社)日本オプトメカトロニクス協会
(一社)日本光学会光設計研究グループ
日時 2026年11月20日(金) 10:00(受付開始) 10:30~19:30(情報交換会含む)
会場 **講演会** 東京都写真美術館 1F ホール (〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内)
情報交換会 YEBISU GARDEN CAFE (恵比寿ガーデンプレイスタワー3F)
参加費 正会員・賛助会員・協賛学協会員 10,000円 非会員(一般) 11,000円
学生会員 3,000円 非会員(学生) 4,000円

申込方法 参加申込の方は、参加募集ページ→ <https://forms.gle/Y6kHe4tnZJcHen3L6>
で参加区分(参加費別)のボタンを選択し、「参加登録」(Google Forms)に記入・送信した後に、
「お支払いへ」お進みください。 ※こちらのQRコードからも申込出来ます。→



参加費支払 「お支払いへ」ボタンからリンクする支払サイトで参加費をお支払いください。
支払い方法は、クレジットカード、ApplePay または GooglePay が利用できます。

申込締切 2026年11月6日(金)

連絡事項 講演終了後、情報交換会(17:30-19:30)を開催致します。参加無料ですので、ぜひ最後までご参加ください。
講演テーマおよび講師については、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。
最新の情報は、日本写真学会ウェブサイト(<https://www.spj.jp/>)をご確認ください。

プログラム

10:30~10:40 開会挨拶

10:40~11:25 講演1 RICOH GR IV Monochrome の開発

風間泰宏氏 (リコーイメージング株式会社)

リコーイメージングは2026年2月に、GRシリーズとしては初のモノクロ専用機となる「RICOH GR IV Monochrome」を発売した。GRの特長である携帯性と高品位なレンズ描写に、モノクロ専用のイメージセンサーと画像処理、さらに内蔵式の赤色フィルターを組み合わせ、高い質感描写と多彩な表現の幅を実現している。本講演では、その開発背景および技術的取り組みについて紹介する。

11:35~12:20 講演2 「NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S II」の開発

今榮一郎氏 大竹史哲氏 (株式会社ニコン)

ニコンは2025年9月に「NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S II」を発売した。本製品は、従来モデルの高い光学性能を継承しつつ、大口径標準ズームとして世界初のインターナルズーム機構とクラス世界最軽量を実現した。さらに従来比約5倍の高速AFと相まって、動画・静止画の両用途において快適な撮影性能を提供する。本講演では企画背景と光学・機構設計のポイントなどを紹介する。

13:30~14:15 講演3 映像クリエイターのためのミラーレスカメラ EOS R50 V・EOS R6 V の企画

中村剛志氏 廣瀬平蔵氏 (キヤノン株式会社)

キヤノンは、映像クリエイターに向けた新シリーズとして、EOS R50 V (2025年5月発売)とEOS R6 V (2026年6月発売)を市場に投入した。両機は、SNSを中心に大きく変化する映像表現の潮流と向き合い、縦型動画やライブ配信をはじめとするクリエイターのニーズを最優先に企画・開発した製品である。本講演では、両製品の企画背景と、そこに込めた想いを紹介する。

14:25~15:10 講演4 多重対焦システムのマクロレンズ

李大勇氏 (安徽長庚光学科技有限公司)

LAOWA 創業時の初代2倍マクロレンズは業界の等倍マクロ常識を覆した。しかし、無限遠から2倍までの変倍過程でフォーカス群の移動量が大きく、2群フローティング構造のためオートフォーカス化は極めて困難だった。そこで2025年、2つのフォーカスシステムを搭載した180mm F4.5を発表。マクロ域ではマニュアル微調整、通常距離ではAFとし、近接撮影と日常撮影を両立させた。本講演では、その実現手法を詳述する。

15:20~16:05 講演5 生成AI時代のコンテンツ真正性 - アドビのAI戦略とコンテンツ認証(CAI/C2PA)の現在地と未来

仲尾毅氏 (アドビ株式会社)

生成AIの普及により、コンテンツの真正性確保が重要な課題となっている。アドビはこの課題に対し、コンテンツ認証技術CAI/C2PAを推進してきた。本講演ではアドビのAI戦略を概観し、CAI/C2PAの現在地と未来についてContent Credentialsのデモを交えて紹介する。あわせてCreative CloudおよびAdobe Fireflyの概要についても解説する。

16:15~17:00 講演6 高画素・高解像力偏重ではなく、真に心地よいボケ描写が楽しめるレンズ

馬場信幸氏 (写真家)

デジタル一眼の高画素化に対応したレンズでは、その開放時に高解像力と画面周辺でも口径食がなく、均等で柔らかいボケ描写の両立は望めない。そこで解像力は趣味の写真では十分な2000万画素とし、さらに開放F値もF2.8~4に抑えることで、全画面で心地よいボケ描写が得られるレンズ。大口径で大きくぼかすのではなく、豊潤なレンズの味と柔らかい後ボケによる写真表現は、心まで豊かになる写真レンズとしての新たな価値を生む。

17:00~17:05 閉会挨拶

17:30~19:30 情報交換会

問合せ先 (一社)日本写真学会事務局 カメラ技術セミナー係
E-mail: info@spj.jp Tel: 03-3373-0724 Fax: 03-3299-5887